

# 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

令和8年1月30日

協議会名: 女川～江島航路確保維持協議会

評価対象事業名: 離島航路運営費等補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(2事業年度前)(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
<p>シーパル女川汽船株式会社 女川～江島航路</p>	<p>①各島の釣り情報、史跡や文化財、及び出島架橋工事の進捗状況をHP等で発信し、島外利用者の拡大を図る。 ②旅客数の減少に対応した効率的な運航のため、デマンド運航導入の具体的検討を行う。 ③燃料費節減のため、運航時間外にはエンジンを停止する。 ④船舶修繕費削減のため、船員による日常メンテナンスを行い不具合の早期発見に努める。 ⑤船齢18年を経過する使用船舶「しまなぎ」について、老朽化や船舶修繕費用が増加傾向にあることから、新船舶を建造することにより、修繕費等の経費の大幅な削減を図る。 ⑥航路再編後の運航便数・運航ダイヤの検討を行う。 ⑦乗降場所である観光棧橋について、地盤隆起による高低差解消のため、引き続き、管理者(宮城県)へ要望していく。また、航路における観光資源が乏しいことから、島内の空き家活用等の離島活性化について、引き続き、女川町へ要望していく。 ⑧収入増加策として運賃の値上げについても引き続き検討し、経営改善に努める。</p>	<p>【前回の事業評価結果】 ・費用削減を図るため、エンジン停止や船員によるメンテナンスを実施していることを評価します。 ・「女川町離島航路改善協議会」において、今後の航路再編や船舶について、島民、関係者、関係機関で十分な検討・協議を行うことを期待します。</p> <p>【評価結果の反映状況】 ・江島、出島の島民代表者、漁業協同組合や関係各機関により、出島架橋後の航路再編や船舶の検討を行うため、離島航路構造改革補助金を活用した「女川町離島航路改善協議会」を計3回開催し、江島島民の意向調査を行ったほか、航路再編や代替船舶建造について検討・協議し、女川町離島航路改善計画を策定した。</p> <p>・代替船舶建造について、本省内航課の事前協議を経て、住民代表、JRTT、行政機関等から構成される「女川町離島航路新船建造委員会」を設立し、具体的な新造船の仕様等建造に関する検討・協議を行い、見積り合わせを実施し、造船所を選定した。</p>	<p>左記の「②事業概要」に記載した取組みについては、以下のとおり実施された。</p> <p>① 出島架橋工事の進捗状況をHPで発信することにより、出島架橋を船から見る周遊の利用客が増加したほか、釣り客の航路利用がみられた。</p> <p>②、⑥ 陸上公共交通の運行開始と合わせて、出島への寄港を取りやめるとともに運航ダイヤを変更し、デマンド運航の導入を行った。(第3便)</p> <p>③、④ 適切に実施した。</p> <p>⑤ 左記③「前回の事業評価結果の反映状況」とおり適切に実施した。</p> <p>⑦ 観光棧橋の高低差解消について、シーパル女川汽船株式会社と女川町が、宮城県東部振興事務所に対して改善要望を行った。また、島内の空き家リノベーション等離島活性化について、女川町へ要望を行った。</p>	<p>【年間利用者数】 目標 7,931.0人 実績 8,524.5人</p> <p>【達成状況】 出島大橋の供用開始に伴う航路再編により航路利用者数は前年度より大幅に減少したものの、年間実績航路利用者数は8,524.5人となり、目標とした年間利用者数を達成することができた。 これは、出島架橋工事に係る情報発信等により船上から出島架橋を眺める航路利用者のほか、釣り客やNTT等の工事関係者による利用が増加したことによるものと考えられる。</p> <p>達成率 107.5% (593.5人増)</p>	<p>○年間利用者数の目標は達成できたものの、航路再編等により利用者の数の減少に歯止めがかかっていない状況であることから、利用促進に向けて、下記のような取組を実施する。</p> <p>・江島の釣り情報のほか、宮城県の無形民俗文化財に指定されている「江島法印神楽」、江島列島がウミネコ・ウトウの繁殖地として国の天然記念物に指定されていること等、江島の魅力を発信し、島外利用者の拡大を図る。</p> <p>・また、新たに就航する新造船を最大限に利用出来る誘客方を早急に検討する。</p> <p>○運賃収入は減少傾向となっていることから、利用者の増加策はもちろんのこと、収入増加策として運賃の値上げについても引き続き検討していく。</p> <p>○島外からの交流人口を拡大するため、キャッシュレス決済の導入を検討していく。</p>
<p>【二次評価】</p>	<p>・航路再編により、多くの島民利用のあった出島(出島漁港及び寺間漁港)が寄港地から外れたところ、出島大橋を観光資源とした誘客策等により目標とした旅客人数を上回る航路利用者があったことを評価します。 ・新造船の投入は、島民にとっての移動手段である船の安全性や快適性の向上に資するばかりではなく、観光客の誘客促進を図る好機でもあるかと思っておりますので、新造船投入を契機とした、実効性のある利用促進策の推進を期待しています。 ・また、島外からの交流人口拡大のため、キャッシュレス決済の導入を検討していくことに期待します。</p>				